

ワクチン接種をめぐるあれこれ

森本順子 大川法由記
井上芳史 飯田清久

まいった!

とれない予約 そこに強力な 助っ人が

聞き取り 川村豊美

森本順子さんは四万十市のワクチン接種申込開始の朝に、早速電話の前に陣取り、電話をかけた後、しばらくして、なかなか繋がらず、困っていたところ20分間位して、ようやく繋がりました。電話で質問事項に答えていると、もうすでに順子さんの申し込みが完了しているとのこと。県外に住む娘さんが、順子さんの電話の少し前に、ネットで申し込みをしてくださっていたそうです。夫の宏さんは電話で100回以上かけても繋がらず困惑していたところ、こちらにも県外の娘さんがネットで予約してくれたそうです。宏さんは高知市の申請時の

い人ほど強く出るんですか？
若い人は免疫力が強いから副反応が大きいのでしょうか。年齢を取るとあまり副反応がないらしいですね。

私のしようもない話に先生はニコニコとワクチン接種は受けて「三十分ここで休んでください」と言われ、待合室でのもんぱりと待機。三十分後何もなくて家に帰るとシャワーを浴びて寛ぐ。二回の接種を終えた解放感でビールがうまい。一本で足りずにもう一本。鉄砲型の非接触型体温計では36.5℃。のんびりと夜を過ごし、布団に入った。

もたれば若干あるが食欲はある。飲み過ぎた翌朝よくあることで(飲み過ぎたわけではないけど)珍しいことじゃない。副反応は起こるはずがない。根拠はないけど確信している。しかし気にはなる。体温計が37.7℃を表示した。測定値表示は黒の液晶で、背景はいつも緑色なのに今回は黄緑色になっている。「えっ」と思ったが私の乗観バイアスが働く。気のせいだ、誤作動だ、すぐにいつもの体温に戻るだろう。扇風機にあたりながら本を読んだが、字がかすみ読みづらい。数行進むと前の内容を忘れていた。「これもういつものことだ」と考えないうちに昼間からエアコンをかけて床に就いた。

昨年65歳の年、某県の美術館に行った。入館券売り場の若い女性が少し遠慮がちに「割引制度を利用できます」と言ってくれたが、70歳以上が対象だった。見た目70歳でも若い人のような副反応は起こるのか。昼食後(食欲はある)、体温計は38.0℃になっている。背景が赤色だ。初めて見た。熱がある一八度になっていて一観念した。副反応だと認めるしかない。一気に重症人の気分になった。もう寝るしかない。布団に入っても関節が痛い、腰が痛い。寝返りして接種した腕が下になる。ズキンと痛む。頭が熱い。痛い、汗をべったりかく。のどが痛く冷たい水が飲みたい。寝ては寛め寝ては寛め、よくわからない夢をうなされたように見える。日が暮れて夕食後(それでも食欲はある)、体温計は37.6℃。体温はそれから下がらず、夜中に突然寒気に襲われ布団を2枚被る。発汗で枕がぐっしょり濡れる。とにかく何も考えず寝よう。

二回目接種! とっぴが...

大川法由記

7月26日午後4時、二回目のワクチン接種。近くの診療所で受ける。「一回目はどうでしたか?」と先生。「少し腕が痛んだけど熱は出ませんでした」と私。「副反応は若

朝、目が覚めると関節や腰の痛みがない一階段もゆっくゆっく降りられた。おそるおそる体温測定器を顔に当てスイッチを入れると36.6℃。測定値の背景もきれいな緑色になっている。



たいだ」と以前話していた。(妻の若さを言いたかったのか。)

朝、目が覚めると関節や腰の痛みがない一階段もゆっくゆっく降りられた。おそるおそる体温測定器を顔に当てスイッチを入れると36.6℃。測定値の背景もきれいな緑色になっている。

コロナワクチン 奮戦記

井上芳史
飯田清久

振り返ると一回目が全く何も起こらなかったから二回目もそれほどではないだろう。年齢的にも副反応はないだろう、と高をくくっていた。

コロナワクチン接種については、全国各地ででんやわんやの大騒動がありました。私たちの住む高知でも、住む地域や年齢、生活環境や健康状態などによってワクチン接種にたどり着くまでにいる人な壁を乗り越えなければなりません。B型就労支援事業所「てとてあさひ」は視覚に障害のある人たちが働く事業所です。視覚障害者は手で触れて周囲の状況を確認します。またヘルパーさんの肘や肩をつかんで外出しています。さらにマッサージュ施術では、来客者に直接接触することとなり新型コロナウイルスの

高い接種率といえます。「てとてあさひ」では利用者、支援員などがコロナに感染しないよう、早期にワクチン接種が行えたらと取り組んできました。ここでは、「てとてあさひ」の利用者・スタッフがワクチン接種に行きつづめての様子をお伝えします。

3月9日: ワクチン接種の準備
県内視覚障害者団体が高知市保健所・地域保健課と懇談。視覚障害者が感染した場合ホテルでの静養や入院時の対応、ワクチン接種郵送時の大活字・点字・録音物の同封、ワクチン接種病院への予約票への代筆やサポートなどについて要望した。担当者からはしっかりサポートするので安心してくださいと心強い回答があった。

視覚障害者とスタッフが同じ病院で接種できないか相談したが配慮はできない、予約を取ってもらえないと話があった。地域保健課も同様の回答であった。3月1日に申し込みを、理解してくださったと思っていたのに、申し込み内容が周知徹底されていないことに対し、有事の際には障害者は取り残されてしまうのだと思った。

「てとてあさひ」は視覚に障害のある人たちが働く事業所です。視覚障害者は手で触れて周囲の状況を確認します。またヘルパーさんの肘や肩をつかんで外出しています。さらにマッサージュ施術では、来客者に直接接触することとなり新型コロナウイルスの

3月16日: 行政から配属事項の問い合わせ
高知市地域保健課からの要請で、コロナワクチン接種券郵送の際に視覚障害者に対する配慮について懇談する。郵送文書の大活字化・点字表記・録音物の同封、郵送物を担当した課の大活字表示の必要などを説明。後日実際に送

5月5日: 「来客者」に「コロナ」
コロナ感染者と間接的に接触した人(濃厚接触者ではない)がマッサージュのお客として来所したことがわかる。念には念を入れて事業所独自の判断で施術したマッサージュ師2名を10日間自宅待機で対応する。

5月10日: 高齢者の根拠予約にトライ
事業所のスタッフ・利用者中4名の65歳以上高齢者を同じ病院で同時に接種できるように予約を取り組む。コールセンターに電話をする、スマホを使ってアクセスしてみる。約20回も電話をかけるがつかない。

6月1日: マッサージュから取材
視覚障害者のコロナワクチン接種予約問題で高知新聞記者の取材を受ける。

ワクチンやコロナウイルスをめぐる思いはあふれるように

6月10日: 市議と相談
優先接種で高知市議と相談する。(4面へつづく)